

新連載

農業が
おもしろくなる
私の
情報活用 1

「先生」の「先生」は 「ルーラル電子図書館」

長野県丸子町 直売農家・伊藤良夫さんの場合

編集部

パソコンが農家の「農具」になってきた。「現代農業」18年分、「野菜編」「土肥編」など「農業技術大系」全6編、さらに「病害虫・雑草の診断と防除」のデータベースなどを収録した「ルーラル電子図書館」(有料会員制)の農家会員も、ここへきて大幅に増えている。この連載では、農家のルーラル会員を中心に、それぞれの「情報活用」を紹介したい。

「他人には
教えたくないナア」

長野県の東部、上田市からバスで四〇分のところに位置する丸子町。人口は約二万五五〇〇人で安定しているが、農業のほうは農家戸数も農家人口も減り続けている。河岸段丘地帯は水田、その上の丘陵地帯の畑地はかつては桑園が多かった。養蚕がすたれ、その後盛んになったシイタケやリンドウなどの花の生産も減



伊藤良夫さん。「ルーラル電子図書館」を検索してでてきた記事一覧をみる

り続けている。

そんななかで今、村の農業の元気の源になっているのが、インショップも含め、町に六つほどある直売所である。スーパー「マツヤ丸子店」のインショップは、小さなスペースだが、新鮮さとおいさがうけ、開始二年目で二〇〇〇万円の売り上げになった。まず、地場野菜コーナーに行き、それからスーパーが仕入れた他産地の野菜を買い消費者が多いという。

伊藤良夫さん五十一歳。一〇年間、町議を務め、町内の直売所づくりに奮闘してきた伊藤さんは、町議をやめた昨年からは、奥さんと一緒に直売所むけの栽培に、本格的に取り組んでいる。

そんな伊藤さんが、「他人には教えたくないナア」と冗談がでるほど役だてているのが、農文協の「ルーラル電子図書館」だ。

今年の六月五日には、総工費一億六〇〇〇万をかけた町の直売所(敷地面積三〇〇〇坪、建物面積一五〇坪)がオープンする。出荷者は約一〇〇人、直売所の

食と農の総合情報センター

ルーラル電子図書館

lib.ruralnet.or.jp/

ル-ラルネット | ル-ラル電子図書館とは | 入会案内 | ご利用状況 | パスワード変更

ナス 発芽

検索 ヘルプ 検索用語集

防除 現代農業 技術大系 食全集 食農教育 食品加工 (索引)

Home 防除 現代農業 技術大系 食全集 食農教育 食品加工

What's New

- ★用語をクリックするだけで検索できる「検索用語集」を設けました (03/11/20)
- ★『水田農業ビジョンづくり アイデア&先行事例集』を更新しました (03/11/19)
- 防除情報コーナー 9月20日号を更新しました (03/10/27)
- 新たに「食農教育コーナー」をスタートさせました (03/07/01)
- 新たに「防除情報コーナー」をスタートさせました (03/05/20)
- 「登録農業を調べるコーナー」を新設しました(「防除情報コーナー」へ) (03/05/20)
- 『花卉病害虫の診断と防除』データベースを新規収録(目次へ) (03/05/20)
- 『農業技術大系』土壤施肥編記録第14号、花卉編記録第5号を追加しました(「農業技術大系コーナー」へ) (03/05/14)

病気・害虫・雑草を防ぐ(防除)

- 防除ニュース
- 病害虫の診断と防除
- 登録農業を調べる

技術・経営・暮らし-農家の知恵(現代農業)

- 最新号の目次
- 2002年の目次から
- テーマ別記事案内

技術の基礎と研究成果-農家事例(技術大系)

- 最新技術情報
- テーマ別記事案内
- 目次から

地域資源活用の技術情報(食品加工)

データベースには本文は含まれていません。索引としてご利用ください。

食と暮らし-庶民の知恵(食全集)

- 『日本の食生活全集』の内容紹介
- テーマ別記事案内

ふるさと学習-食農教育

- 子どもと調べ学習
- 授業づくり・栽培レポート
- 教材研究

水田農業ビジョンづくり アイデア & 先行事例集

調べたい用語を入れて、検索ボタンを押すと、該当の記事一覧がでる

運営のリーダーでもあり、オープンに合わせ、トマトを中心に各種の野菜を留意しようと張り切っている伊藤さんに、「ルーラル電子図書館」の役だて方を伺いました。

ナスの芽が出ない！

「野菜編」でナスの生理に立ち返る

伊藤さんはルーラル会員歴五年。町議時代は、主に産直とか地域づくりについての記事などを見たが、昨年からは本格的に技術記事を調べるようになり、利用ページ数も大幅にアップした。

表1は、ここ一年間に見た記事の本数とページ数だが、「技術大系」の記事が一番多く、「現代農業」「防除」と続く。どんな記事を見ているのだろうか。

「各作物の生理や、発芽に必要な条件などの基本的な知識が頼りになる」と伊藤さん。

昨年、ナスで播いたタネの芽が一月もでないことがあった。なぜだろうと奥

表1 伊藤さんの「ルーラル電子図書館」のデータベース(有料部分)の閲覧記事件数とページ数 2003年1月～2004年2月)

	件数	ページ数
現代農業	59	218
食全集	5	9
農業技術大系	165	1001
防除	36	165
計	265	1393

さんと一緒に考え込んでしまったのだが、「ルーラル」で「野菜編」のナスの項の目次をたどり、ナスの発芽条件について書かれた記事で、こんな記述を見つけた。

「ただし、ナスの種子は恒温では発芽の悪いばかりが多く、変温が有効であることは柿崎によって見出されており、温度に変化のあったほうがいつせいに早く発芽する。(中略)育苗にあたって、温床に播種するばあいには、昼夜の温度較差を大きくしてやる必要がある、昼間は

30、夜間は20 くらいに保つことが望ましい」(「野菜編」第5巻ナス 基礎編「種子の発芽の生理、生態」)

ナスの発芽には温度差が大切なことを知った伊藤さんは、日中の保温につとめ、お陰で今年は四、五日で発芽させることができた。

栽培してみると、いろんなことが起きる。そんな時、野菜の生理にまで立ち返ってみると、大きなヒントが得られることが多いという。

今までつくったことがない作物をつくる場合も、「野菜編」の生理・生態のところを見る。

「直売中心の場合は、この地域にないものを人より早くつくるのが大事です。そんな品目に取り組む時には、『技術大系』の基本的な記述が、大変助かります。」直売用野菜づくりの主力は五〇〇坪のパイプハウスで、稼ぎ頭のトマトを中心にキュウリを組み合わせ、去年からブロッコリーやストックなどの花にも力をいれている。

ブロッコリーを始める時は、ブロッコ

リーの「原産と来歴」「性状と分類」「花蕾と花芽の形態と発育」「生理、生態的特性」などの「基礎編」の記事をひと通り読んだ。そして、実際の栽培が始まると、作業の進展に合わせて、前もって順に「基本技術編」を読んでいく。生育段階を追って技術・作業を解説しているのが、いいという。

気象のちがいを押さえて事例に学ぶ

「技術大系」は、「基礎編」「基本技術編」のほかにも多くの「精農家の事例」が掲載されているが、「事例は事例で、栽培のしくみを考えるのに役だつ」という。一戸の農家の技術の体系が詳しく書かれており、栽培全体の流れとその農家が重視しているポイント、そして作業の実際がわかる。

スイートコーンの事例に、山梨県甲府市の農家の記事があった(「野菜編」第11巻)。

その記事では、ハウス栽培は、「十二月のうち施肥耕うんをして、一月半ば

にうね立て、ビニール被覆などを行ない地温の確保に努め、二月一～五日のうち「播種する」こと、そして二重トンネルは二月二十～二十五日、大型一重の場合「天候のよい暖かい日に播種する」とあった。

そんな記事を読んだ時、伊藤さんは、事例の地域と自分の地域の気象、特に温度の違いを、気象庁の気象データ「電子閲覧室」(三三〇ページ参照、無料)で調べる。

全国各地の昨年の気象や平年値のデータがでており、甲府市と、丸子町のデータがないため、隣町で標高も変わらない上田市のデータを比べる。すると、表2のような違いがある。距離的にはさほど離れていないが、甲府市の二月の気温がこちらの三月に近い。初期の条件だけを考えると、播種を約一カ月遅らせたほうがいいことになり、作期を同じにするなら、保温を強めなければならないことになる。

条件の違いはほかにもいろいろある

表2 上田市と甲府市の温度のちがひ(平年値)

		平均気温	最高気温	最低気温
2月	上田市	0.1	5.6	-4.4
2月	甲府市	3.7	9.8	-1.6
3月	上田市	3.9	10.0	-1.0
3月	甲府市	7.6	13.8	2.2

気象庁の電子閲覧室(<http://www.data.kishou.go.jp/>)より

が、気象の違いをみるだけでも、「技術大系」の事例の価値が、ずっと大きくなるという。

一人の農家の技術にこだわる

一方、「現代農業」は、意外なヒントを与えてくれて、「技術大



2月末に定植したトマト。定植後は1回もかん水していない

系」とはちがった魅力があるという。そんな伊藤さんが最近になって、「ルーラル」でよく引き出すのが、干葉のトマト農家、若梅健司さんの記事だ。

実は昨年、伊藤さんの無加温トマトは、灰色カビ病が蔓延して悲惨な目にあっただ。それまでのオンボロハウスでは問題にならなかった灰色カビが発生したのは、新しいハウスがあまりに気密性がよくて、過湿状態になったためだ、とみている。一、二段はとれたが、その後は壊滅状態。

そんな苦い体験をして、今年、伊藤さんは、防除データベースの「灰色カビ病」の記事を見ながら、農薬の予防散布に努めるとともに、若梅さんの記事を参考に、栽培方法を変えることにした。

「桃太郎」というキーワードで「現代農業」を検索し、記事一覧から、前から気にかけていた若梅さんの記事を選んでみていった。一九九一年三月号の「浅根性の桃太郎に、しおれ活着で広く深く根を張らせる」という記事には、「定植後一カ月はじつと我慢の無かん水」とある。

伊藤さんは今年、これを実践している。

定植前に十分かん水し、植えてからは一切かん水していない。定植して二週間経過したトマトは、固めにじっくり育ち、根が順調に張っているようだ。今年は、六月五日の直売所オープンにあわせて、いつもより一カ月作期を早めているが、この分だと、直売所オープンをいい形で迎えられるそうだ。

「若梅さんの指摘は私にとつて、なぜか納得するものがある。しばらくは、若梅さんを信じて、若梅さんのいうとおりをやってみようと思っている」と伊藤さんはいう。

「現代農業」にはいろんなベテラン農家が登場しており、それはそれで心引かれるが、自分なりの技術を確立するには、一人の農家の技術の体系に沿う形で学んでいくのがいいと、伊藤さんは考える。

「現代農業」によく登場する農家の記事を、過去までさかのぼって一覧できるのも、「ルーラル」の魅力だ（ちなみに、「若梅健司」で検索すると、七八本の記事がでてくる）。

毎月の「現代農業」に刺激されて

伊藤さんは、「現代農業」の熱心な読者でもある。そして「毎月、『現代農業』を読んでいるから、『ルーラル』も、有効に使える」という。

最近、「現代農業」では、苦土を重視した記事が多く、苦土の重要性がわかってきた。そこで、苦土欠乏の症状や苦土肥料にはどんなものがあるかを、「技術大系・土肥編」の「マグネシウム欠乏」や「苦土（マグネシウム）肥料」で調べた。

「現代農業」の記事でもふれていることだが、そこには、pHなど土の条件で苦土肥料の選び方がちがうとある。自分の畑のpHがわからないと肥料を選べない。そんなこともあつて、伊藤さんは今年初めて、土壌診断を普及所にお願ひした。

今、関心があるのは堆肥マルチだ。ホウレンソウの畑に上から堆肥をふつたら、生育が良く、堆肥の下の土が軟らかい。これはよさそうだ。今年のトマトで



伊藤さんと、伊藤さんを「先生」と慕う新聞販売店の社長・北原さん

試してみようと思っっている。近々「堆肥マルチ」で「現代農業」を検索することになるだろう（堆肥マルチは「現代農業」で最近注目している技術だが、編集部で検索してみたら、一三本の記事がヒットした。

「技術大系」は目次から引くことが多いが、キーワードを入力して検索するやり方は、毎月くる「現代農業」に刺激されて行なうことが多い。

「大事な記事のところに紙を挟んだりしなくても、興味をもった言葉や資料を記憶しておけば、あとで検索していくらでも調べられる」と、伊藤さん。その言葉で「現代農業」の過去の記事だけでなく、「技術大系」の記事もみることができ。

本の読者だからこそ、電子もより有効に活かせるのである。

産直仲間には、新規就農者や、これから本格的に野菜づくりを始めるという人も少なくない。伊藤さんは、この「ルール電子図書館」を、産直グループの事務所で見られるようにしようか、と思っっている。もっとも、ルールは「自分の図書館」として、個人で利用するのがいいと思う。

ハウスで取材していたら、伊藤さ

んのハウスの隣に小さなハウスを立て、直売むけにトマトを始めたという、北原宏美さんがやってきた。二〇〇人の配達員を雇う新聞販売店の社長さんだ。

「土が乾いているけど、水をやってもいいか」という北原さん質問に、伊藤さんは「がまんしたほうがいい」と、答えた。「トマトづくりがこんなにおもしろいとは、思わなかった」という北原さん、伊藤さんのことを「先生」と呼ぶ。

その「先生」の「先生」が「ルール電子図書館」なのである。